

相模原市公共下水道管路施設
維持管理業務委託（緑区・中央区）

落札者決定基準

令和 7 年 8 月

相模原市都市建設局土木部下水道保全課

1 落札者決定基準の位置付け

この落札者決定基準は、入札参加者から提出される入札書及び技術提案書を評価し、落札者を決定するに当たって、最も優れた提案者を選定するための方法や評価基準等を示したものである。

2 落札者決定基準

- (1) 200点満点（技術点120点、価格点80点）で評価し、技術点と価格点を合計した「評価値」が最も高い者を落札者とする。なお評価値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位表示とする。
- (2) 評価値の最も高い者が2者以上いる場合は、技術点が最も高い者を落札者とする。
- (3) (2) に該当する者が2者以上いる場合は、当該者のくじ引きにより落札者を決定する。

3 失格基準

別表「技術評価点採点基準」の「評価項目」のうち、「2 履行能力」を除き、一つでも未記載の項目がある場合には、失格とする。

4 技術点

別表「技術評価点採点基準」における「提案評価の着眼点」の内容に応じて、「配点」欄の点を最大値として配点する。

5 価格点

入札参加者それぞれの入札価格と、入札参加者の中で最低となった入札価格を次式に代入して算出する。ただし、入札価格が本件の予定価格等の制限の範囲を超えている場合は落札者とししない。なお当該値に小数点以下の値があった場合は、小数第5位切捨て、小数第4位まで求めることとする。

$$\text{価格点} = 80 \text{ 点} \times \frac{\text{入札参加者の中で最低となった入札価格}}{\text{入札価格}}$$

技術評価点採点基準【相模原市公共下水道管路施設維持管理業務委託（緑区・中央区）】

評価項目	提案評価の着眼点	配点
1 実施体制	<p>（１）本業務は複数業務をパッケージした複数年契約の業務であり、本業務を計画的かつ効率的に行うためには、発注者の窓口となり各業務を統括管理する責任者（統括管理責任者）の役割が重要となる。</p> <p>ここでは、統括管理責任者を務める者のこれまでの経歴（統括管理責任者または主任技術者を務めた経歴）や所持する資格を評価する。</p>	5
	<p>（２）本業務では４年間で１９，４０１箇所の管内点検を行う必要があることから、確実に業務を完了させるための体制（月平均４０５箇所を上回る実施体制となっており、且つ実績があるかどうか）について評価する。</p>	5
2 履行能力	<p>本市において、下水道管路施設の維持管理に包括的民間委託を導入することは初めてであることから、他都市における公民連携（複数業務をパッケージした複数年契約の業務）の履行実績を評価する。</p>	5

技術評価点採点基準【相模原市公共下水道管路施設維持管理業務委託（緑区・中央区）】

評価項目	提案評価の着眼点	配点
3 地域経済・地域貢献	（１）参加事業者のうち、市内企業が担う想定業務量（事業費の割合）及び市内企業の数について評価する。	15
	（２）地域経済の活性化に当たっては市内企業の存在が重要であるが、本業務を通じ、市内企業が市内外や異業種の企業と連携することで、新たな知識やノウハウが蓄積され、また最新技術の導入等により更なる成長が期待されることから、市内企業の技術力向上につながる取組について評価する。	10
4 安全対策・危機管理	本市では、局地的大雨に対する安全対策が必要な工事は、市の特記仕様書に即した対策を行うこととしているなど、安全対策の向上に向けた取組を進めている。ここでは、次の内容について評価する。	10
	（１）本業務における作業上の安全対策に向けた取組を伺い、本市の今後の下水道施設の維持管理において、安全対策向上に寄与すると判断される提案を評価する。	
	（２）大地震等の自然災害が発生したときには、広域的に交通や通信等の障害が生じるおそれがある。これらを想定した人員や資機材等の確保に関する危機管理体制を伺い、効果があると判断される提案を評価する。	10

技術評価点採点基準【相模原市公共下水道管路施設維持管理業務委託（緑区・中央区）】

評価項目	提案評価の着眼点	配点
5 実施方針	<p>本業務は債務負担行為による複数年契約であることから、各年度における予算には限りがある一方で、4年間で各業務を着実に完了するためには、業務の内容や留意点を十分に理解し、統括管理責任者を中心に計画的に業務を履行することが重要である。また、業務を通じ発見された課題等をセルフモニタリング等を通じ改善を図ることで、さらなる業務の効率化が期待される。</p> <p>ここでは、本業務を計画的かつ効率的に行うための取組やセルフモニタリング等の実施方針について評価する。</p>	10
6 緊急対応	<p>（１）下水道はライフラインの1つであり、管路内の詰まりが発生したときには、昼夜を問わず早急に復旧することが求められる。</p> <p>ここでは、夜間に管路内の詰まりが生じたことを想定し、市の依頼を受けてから現地到着（清掃・浚渫に使用する資機材や作業員が現場に到着した時間）までの想定時間を伺い、緊急対応が優れていると判断される提案を評価する。なお、管路内の詰まりが生じた場所は、履行場所とする公共下水道区域内において、対応の起点となる場所から到着までに最も時間を要すると考える場所を想定するものとし、その場所を技術提案書に記載すること。</p>	6
	<p>（２）管路内の詰まりは昼夜を問わず早急に復旧することが求められるものの、夜間・休日は次の要因で対応に時間を要する場合がある。</p> <p>「市職員が事務室で電話受付をしていない時間帯であることから、市民通報から守衛室を経由し、市職員が受付するまでに時間を要する。また、市民通報を受付後、市職員が現地確認を行い、その後、対応可能である業者に連絡をしても作業員を確保するまでに時間を要する。」</p> <p>ここでは、対応に時間を要するこれらの要因に着目し、事業者の創意工夫により時間の短縮につながる提案を求め、その内容を評価する。</p>	4
7 維持管理情報	<p>（１）本業務における管内点検、管内調査、清掃・浚渫及び修繕等の結果（維持管理情報）を相模原市下水道施設維持管理システムに反映することで、予防保全的維持管理に寄与する維持管理情報の蓄積を進めることを想定している。</p> <p>ここでは、同システムに維持管理情報を反映するときの照査体制（チェック体制や正確に維持管理情報を入力する手段）について評価する。</p>	10
	<p>（２）本市では、庁内に下水道施設維持管理システムを有しており、庁外から同システムの更新を行うことができないため、最新情報を反映するまでに時間を要していることが課題である。そこで、効率的に維持管理情報を反映し、また迅速に同情報を確認することができる提案等について、評価する。</p>	10

技術評価点採点基準【相模原市公共下水道管路施設維持管理業務委託（緑区・中央区）】

評価項目	提案評価の着眼点	配点
8 技術継承	<p>民間等における担い手の減少や経験豊富な職員の退職などが進む中で、若手への技術継承が進まないなど人材に関する課題を抱えている。</p> <p>ここでは、発注者及び受注者双方の技術継承に向けた取組（発注者及び受注者双方の若手が気軽に経験豊富な職員と情報交換できる仕組みを構築するなど）について、評価する。</p>	5
9 今後の事業展開	<p>本市では、本業務と並行して、令和12年度以降の下水道施設の維持管理に関する公民連携の検討を進める予定である。</p> <p>ここでは、国が推進している維持管理と更新の一体マネジメント等を踏まえ、下水道施設を取り巻く諸課題（ヒト・モノ・カネ）に対応するためにはどのような維持管理の在り方が考えられ、また本業務を通じて得られた成果をどのように活用することができるかを評価する。</p>	10
10 その他	<p>予防保全への転換に向けて戦略的な維持管理を行い、事故発生等を未然に防止するため、効率的なメンテナンスに係る下水道DX技術の導入について、評価項目1～9以外の提案を評価する。</p>	5